

代表質問

※ 議長（片渕卓三）、監査委員（篠田一彦）は、慣例により一般質問を控えています。

公明党尾張旭市議団



芦原美佳子 議員



(動画配信)

Q 子ども医療費の助成を通院も18歳まで拡大を！

A 高校生世代までの通院医療費助成の実施準備を、順次進めていきたい

Q 未来への投資の一環として、子ども医療費の助成を通院も18歳まで拡大することについて、市長の見解を伺う。

A 市長 令和3年度より、高校生世代までの入院医療費の助成を開始した。当然、通院医療費の助成が子育て支援の充実に向けた次の一手になる。経済的な負担軽減に関しては、様々なニーズがあり、これらの検討も含め、高校生世代までの通院医療費の助成の実施準備を、順次進めていきたいと考えている。

Q GIGAスクールにおける学びの充実について

A 家庭学習や不登校の児童生徒への学習支援なども活用していく

Q コロナ禍の学級閉鎖や休校により、タブレット端末等の活用が更に注目されている。これまでの効果や課題、今後の推進について伺う。

A 教育長 タブレット端末は教科書やノート、カメラなど教材としても利用できる多機能ツールであり、児童生徒の興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びにつながっている。課題は管理、セキュリティ面での安全確保が大きな課題である。より効果的に活用できるよう推進していく。

Q 学校体育館のエアコン設置について

A 特別教室への設置の後は引き続き、学校体育館へと設置を進めていきたい

Q 学校体育館のエアコン設置の方針、今後のスケジュールについて伺う。

A 市長 学校体育館は、授業や部活動、学校行事や学校開放等により利用頻度が高く、避難所としての役割もある。学習環境の改善を図るため、積極的に小中学校の施設整備を進め、中でも空調設備に関しては熱中症対策や感染症対応のため、校舎の普通教室から、特別教室へと計画的に設置を進めており、その後は引き続き、学校体育館への設置へと進んでいきたい。

Q がん患者のアピアランスケア支援について

A その必要性は十分感じている

Q 愛知県の新年度予算案には医療用ウィッグ等のアピアランスケア支援を行う市町村に対する助成制度の創設が盛り込まれた。がんとの共生を実現していく治療と仕事の両立、社会生活を送る上で、極めて重要なケアであるアピアランスケア支援について考えを伺う。

A 市長 まずは、がんの早期発見のための施策に注力し、これと並行しながらアピアランスケアのニーズの把握や、支援内容などの調査研究を進め、県の予算の活用を検討していきたい。

Q 三郷駅周辺まちづくり推進について市長の抱負は

駅前の整備だけでなく、森林公園を含めた広域的な将来像を視野に入れて事業計画を策定していきたい

Q 人口減少対策やコンパクトシティ化、魅力あるまちづくりに貢献するであろう「三郷駅周辺まちづくりの推進」について、現段階でのスケジュール、市長の抱負を伺う。

A 市長 令和3年度は、三郷駅周辺地域の方々を対象にワークショップ等を行ってきた。令和4年度は引き続き、市民参画の場を設け、御意見・アイデアを頂きながら、事業計画の策定に取り組んでいきたい。

Q 高齢化やウィズコロナ・アフターコロナを見据えた窓口サービスの向上について

A ハード面とソフト面の整備を並行して進め、更なる窓口サービスの向上へとつなげたい

Q デジタル化の推進により行政手続のオンライン化が期待される一方で、書かない窓口やおくやみコーナーなどが広がりつつある。またコロナ禍の中、キャッシュレス決済やセミセルフレジが感染症対策として多くの店舗で取り入れられた。高齢化やウィズコロナ・アフターコロナへの対応について伺う。

A 市長 コロナ禍をきっかけに行政手続の在り方は大きく変わりつつある。令和2年度の押印見直しに引き続き、令和4年度は行政手続のオンライン化等も進めていくが、その際には、利用のためのサポートも必要だと考えられる。

代表質問

市民クラブ



早川 八郎 議員



(動画配信)

Q 残り任期1年をどのように市政をリードしていくのか

A 市民の命と暮らしを守ることを最優先にオンラインのまちづくりを推進

【この3年間の市長の歩みについて】

Q この3年間の中心は、コロナ対応に追われたと想像するが、本来計画していて、やれたこと・やれなかったことについて伺う。

A 市長 市制50周年記念行事など市民との交流機会を設けることができず、「市民協働のまちづくり」が進められず残念であったが、小学校大規模改修や下水道整備等のハード整備のほか、地域の魅力商品創出事業等のソフト整備を推し進めた。また、全国植樹祭を無事開催できたことは、市民に感謝している。

Q 残り任期1年をどのように市政をリードしていくのか？

A これまでと同様「市民の命と暮らしを守ること」を最優先する必要があり、令和4年度からは、第六次総合計画の策定を市民と共に進めていく。

Q 令和4年度の予算編成では、どのような光を市民に当てているのか？

A 子育て支援・教育の充実、デジタル化推進、住みやすいまちづくりの3分野

【令和4年度の予算編成について】

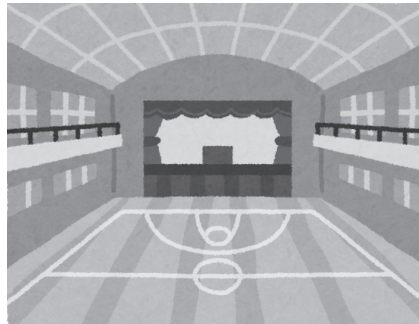
Q 移り変わりの激しい時代に対応する未来型の予算編成との

ことだが、どのような時代を迎えると想像しているのか？

A 市長 価値観の多様化やデジタル技術の進歩などにより、暮らす場所や暮らし方の選択肢が広がることは市にとって大きなチャンスと考える。大都市近郊の良好な住宅都市という本市の立ち位置や健康都市の取組は、大きく飛躍する可能性を持っていると考える。

Q 人が前に進むには、その先に小さくても明るい光を見つけると希望を持つことができる。新年度予算編成では、どのような光を市民に当てているのか？

A 子育て支援・教育の充実では、育児リフレッシュ時預かり事業の試行やいじめ不登校対策の推進など。デジタル化の推進では、行政手続のオンライン化や市内事業者のデジタル化の支援など。住みやすいまちづくりでは、駅周辺の環境整備や総合体育館の空調整備など。



Q 市制50年を取りまとめ、この先の50年をどんな未来につなげるのか

A 今日と同様、明日も暮らし続けられることを保障する取組をしていく

【今までの50年これからの50年について】

Q 予算編成や施政方針から読み取ると公共施設等のハード面は「長寿命化」、ソフト面においては「時代の変化に対応」と

いう感じだが、本市のこれまでの50年を取りまとめ、これからの50年を市長としてどんな未来につなげていくのか？

A 市長 「住みやすいまち」であり続けるためには、「自然環境を生かしたまちづくり」や「安全安心なまちづくり」、歩いて暮らせる「ウォーカブルなまちづくり」にも積極的に取り組んでいく。今後、人類は人口拡大と高齢化の時代に突入し、地球規模の課題に直面することになると言われている。そうした中、これからの50年に向けては、今日（きょう）と同様、明日も暮らし続けられることを保障するような取組を確実に積み重ねていく。



その他の質問項目

- 財政向上への運営について
- 医療・福祉政策について
- こども・子育ての未来について
- 学校教育と大人の生涯学習について
- 都市基盤と本市の未来像について
- 企業等へのサポート事業について
- 変革する時代と消防・防災の対応について
- コロナ禍の経験を生かすについて
- 基金の在り方について

代表質問

令和あさひ



松原たかし 議員



(動画配信)

Q 感染症対策の充実について伺う

① 早いペースで3回目のワクチン接種が進んでいる

Q 感染拡大への対応と、市民の不安解消のためには、早急な3回目のワクチン接種の実施が必要だが、現在の状況等を伺う。

① 市長 予約の混乱を避ける工夫や、関係機関との密接な連携により、他の自治体と比べ、早いペースで3回目の接種が進んでいる。市民が少しでも早く、安心して生活できるように、今後も全力で取り組んでいきたい。

Q 長引くコロナ禍で、自殺やひきこもり等の社会的な問題の増加が危惧されているが、未然防止につなげるための対応策を伺う。

① 困窮者の実態や、具体的な支援要望等を正確に把握するため、臨時特別給付金事業のほか、令和4年度新たに実施予定の家計改善支援事業やアウトリーチ支援員の配置等を通じて、対応していきたい。

Q 「こどもは宝」について伺う

① 今後2か年で小中学校の特別教室の空調設備を整備していきたい

Q 熱中症対策の充実のためには、早期に小中学校の空調整備が必要だが、今後の予定を伺う。

① 市長 普通教室への整備に続き、特別教室や学校体育館への整備へと歩みを進めていきたい。

Q コロナ禍で増加が心配され

る「いじめや不登校」に対する考え方と今後の予定を伺う。

① 教育長 いじめも不登校も早期の対応が大切なため、未然に防ぐことを第一として対策を講じ、学校や家庭と連携して解決に努めていきたい。

Q コロナ禍での「孤独感」が、児童虐待等につながると危惧されているが、今後の対応予定を伺う。

① 市長 多胎児家庭の支援や、リフレッシュ時預かり事業等で、孤立化を防ぐ機会を増やしたい。

Q 「少年少女発明クラブ」の取組は大変有意義であり、今後更に活動の幅を拡大していくべきだが、今後の考え方を伺う。

① 尾張旭から「ものづくり愛知」を担う子どもたちが育ち、未来を支える人材になってくれることを期待し、今後も活動の充実を図っていきたい。

この項目のその他の質問項目
・保育サービスの質の向上

Q 「健康は宝」について伺う

① 利用者を熱中症から守るため、総合体育館の空調設備を早期に設置したい

Q 各方面からの要望を踏まえ、市長が決断した「総合体育館への空調設備の設置」に対する考え方を伺う。

① 市長 これまで優先してきた学校の空調整備に一定のめどがついたため、総合体育館の利用者を熱中症から守るため、早期に空調設備を設置していきたい。

Q 地域生活を実現し、インクルーシブな社会を構築するためには障がい者の自立支援が重要となるが、これに対する考え方を伺う。

① 障がいの有無にかかわらず、全ての人の人権が尊重され、誰も孤立することなく、安心して暮らせる「地域共生社会」の実現を、追い求めていきたい。

この項目のその他の質問項目

・子ども医療費の助成制度

Q 「幸せづくりは宝」について伺う

① 地域経済の活性化が、幸せに暮らせるまちづくりの大きな原動力である

Q 持続可能な活気あるまちづくりのためには、地域の商工業や建設業等、地域経済の活性化が欠かせないが、今後の予定を伺う。

① 市長 丁寧に事業者の声を聞きつつ、本市に見合った施策を展開し、商工会等の関係団体と共に、産業振興による地域経済の活性化を図っていきたい。

Q 市長の強いリーダーシップによって進められている印場駅のバリアフリー化の予定を伺う。

① 多方面の方々からの意見を踏まえ、まずは駅南側の駅前広場から地下自由通路、そして駅のホームまでのバリアフリー化を、令和4年度中に実現したい。

Q 日常生活に密着した「生活道路」の整備に対する考え方を伺う。

① 「まちの健康づくり」の視点で、安全・安心で快適に移動できるウォークアブルな道路環境の整備を進めていきたい。

この項目のその他の質問項目

・三郷駅周辺のまちづくりの推進